

(別紙様式 小中学校用)

平成21年度指定 新しい職を活用した研究モデル校 研究報告書

学 校 名 香南市立野市小学校

学校長名 田中 紀子 印

1 研究テーマ	自律的教育改善を促進する協働型学校組織の構築と実証 ～学校教育目標『子どもたちの「人間力」を豊かに育てる ―自立と共生―』の実現に向けて～
2 研究内容	1 新教育課程拠点校指定事業（国語科）とリンクした取組 (1) 「児童の実態認識」を出発点とした重点課題の設定と教職員間での共有 (2) 児童主体の言語活動を重視した授業実践 (3) 組織的な教科経営を実践するための研修体制の整備及び校内研修の充実 (4) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教科等経営案、年間指導計画の作成と実施 2 円滑な教育活動を運営していくための学校運営組織 (1) 担当制の導入…教職員一人ひとりが主体的に学校運営に参画 (2) 学校運営の効率化と重点化 3 自律的教育改善（PDCA）を推進する条件設定 (1) 教育改善につながる効果的な情報を整理するための工夫（各種データの分析と効果的な活用、ワークショップ、メモ等） (2) 教育改善を促す情報交流を推進するチームの設定（エコちゃんチーム）
3 新しい職の配置による組織体制	組織の改善点については後述 現在の組織体制は添付資料1参照
4 新しい職の活用状況	(1) 主幹教諭：教頭補佐として学校運営、組織運営を担当 主な担当職務 ① 職員会議、エコちゃん会議の運営 ② 校内各分掌、外部関係機関との連絡・調整 ③ 学校行事全般の調整・統括 ④ 必要に応じての児童支援、補欠授業 (2) 指導教諭：校内研究推進、研究組織の見直しを担当 主な担当職務 ① 校内研修の企画・運営 ② 研究体制の整備 ③ 授業担当（5年生算数 週13時間） ④ 必要に応じての児童支援
5 具体的な取組	(1) 国語科を中心とした校内研修における取組（添付資料2～7） ① 校内研修体制の整備 研修と日々の実践を「つなげる」ために、校内研修体制の整備を行った。エコちゃん会議（学年主任参加）、学年研修、全体研修を関連付け、方向付けと学年の状況を確認しながら、研修を進めることとした。また、学年研究目標の設定から授業づくりや授業研究の予定、年度末までに取組を

通して作成する成果物を例示するなど、指定研究の全体イメージを早い段階から示し、見通しを持って研修に取り組めるようにした。さらに、全員が授業を公開することにより、実践を通した話し合いが活発に行われるように研修体制を工夫した。

② 年間研修内容の工夫

1 学期 研究テーマから見た児童の実態認識と課題の把握
講演を通して、取組の基本的な考えを共有
学年研究目標(到達目標、取組目標)設定
公開授業(11名)

夏季休業中 到達度把握検査結果の分析と課題の把握
教科経営案、単元構想、指導案作成
単元構想、指導案の交流と検討

2 学期 全校研究授業(3名)、授業検討会
学年研究授業(3名)
公開授業(11名)
学年研修(実践交流、単元構想、指導案検討)

3 学期 中間発表会 1/18
成果と課題の交流
次年度の目標設定
研究組織の見直し

7月～12月 指導主事を招いての学年別研修

児童の実態と新学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童主体の言語活動を重視した授業実践のための校内研修を、RPDCAサイクルを意識して、段階的に実施した。

③ 情報を共有するための工夫

校内研修日より「つなぐ」を発行し、授業検討会を経た後の授業者の振り返り、校内研修の振り返り、視察研修の内容等を知らせるようにした。全体研修では、BSやKJ法などを活用し、小グループでのワークショップを行うことで、全員が参加して、意見交換を行えるようにした。また、ワークショップで出された意見を研修の最後にシェアリングする等、研修を通しての学びや気づきを共有できる場を工夫した。

(2) 組織運営の改善(添付資料8・9)

① 各会議の位置付けと見直し

従来の企画委員会の代わりにエコちゃん会議を位置付け、学校運営上必要な内容や研究についての原案の検討、学年からの意見集約などを行うようにした。1学期末の反省で、エコちゃん会議の在り方、職員会議の進め方などについて意見が出され、他の会議も含めて夏季休業中に検討し、2学期より改善を加えている。

② 担当制の導入

学校運営や教育課程上必要不可欠な取組、大幅な変更を必要とせず、前年度の反省を元に少しずつ修正を加えることで対応できる取組を担当する分掌として、指導・運営部を位置付けた。特定の教員が個人で担当するのではなく、学校組織として職務内容が引き継げるよう、複数で担当することとした。年度の実施と反省をいかして、年度末には次年度の教育計画(学校運営計画)作成につなげていきたいと考えている。

(3) 児童及び学級支援

不登校、不登校傾向のある児童や、通常の学級に在籍する個別の支援の必要な児童、支援の必要な学級に対して、管理職、当該学級の担任、担任以外の教員と連携し、チームを組んで対応にあたっている。

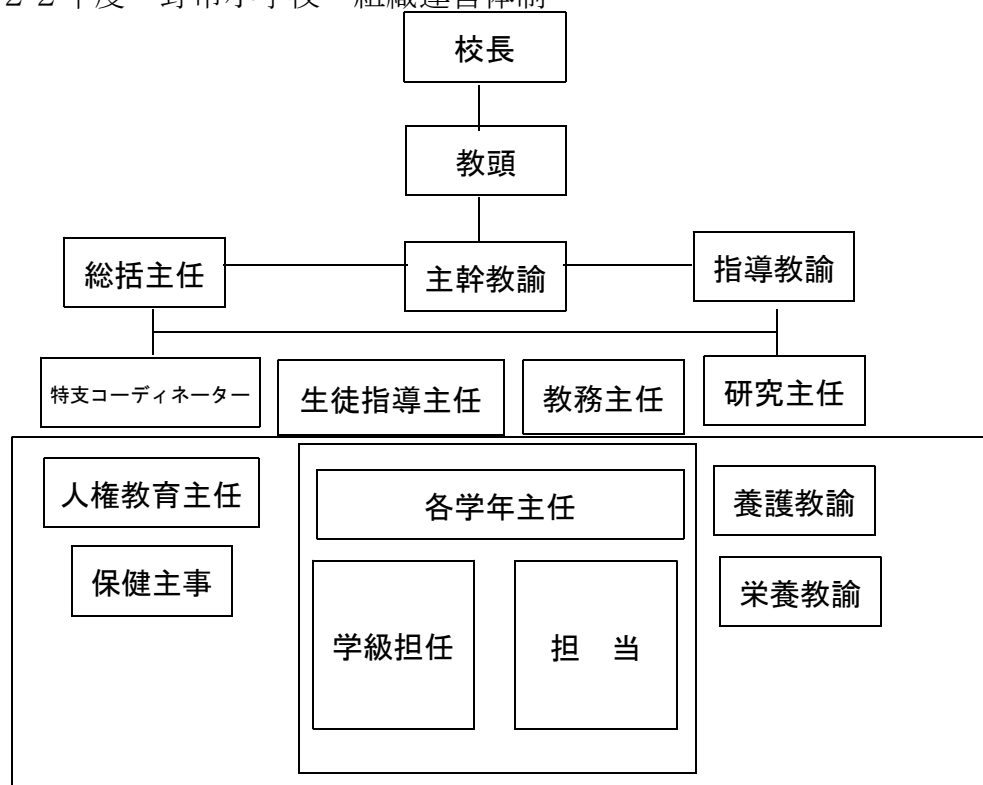
6 研究の成果

- 学年研修を中心とした取組を通して、課題と方向性の共有、知識や経験の交流、児童の実態をもとにした授業改善の話合いが盛んに行われ、年度当初課題としていた「学年における協働的な取組」「自律的教育改善」についての教員の意識の高まりが見られるようになってきている。このことは、アンケート結果（添付資料10）において数値が向上していることから読み取ることができる。
- 指導主事の助言と指導を受けながら、単元構想、単元計画、学習指導案づくりを行うことで、授業づくりの要点や手順を学び合うことができてきている。
- 「管理職、主幹教諭、指導教諭の打ち合わせ」→「エコちゃん会議」「研究推進委員会」→「職員会」「職員研修」の順で検討を行う方法で、情報の共有、意思決定の流れが学校運営の中で確立してきた。
- 担当に一定の責任を持たせて校務を割り振ることで、教職員が学校運営に参画する機会が増えつつある。
- 学校運営の工夫により、校内研修の時間をより多く確保できるようになった。

7 課題の分析と考察

- 国語科を通した授業改善に取り組むことにより、前述のような成果は得られたが、教科指導と共に教育活動の両輪となる生徒指導の取組が今後さらに重要となってくるであろう。授業改善とリンクさせながらの生徒指導の充実を、研修内容に盛り込んでいきたい。
- 中間発表会で頂く意見や年度末の成果と課題を元に、来年度の目標設定と研究体制についても年度内に見直しを進めていく予定である。
- 本年度は研究と運営を分割して考え、2人の新しい職で分担して担当したが、互いにかかわりが深く、分割できない部分も多い。また、運営では教頭と主幹教諭の役割分担が効果的であるかどうかの検証も必要であると考ええる。
- 職員会議の効率化を目指した取組により、校内研修や他の会議の時間を作りだすことができたが、一度の職員会議の議題が多くなってきており、時間も長くなるようになってきている。議題をより一層精選し、焦点を絞ったより有意義な会議にしていきたい。

平成 22 年度 野市小学校 組織運営体制

**校長の役割**

明確な意図を持って校内の組織づくり
各分掌のミッションを示す。
学校改善プランの策定・進行管理
学校評価の評価項目・到達目標
いじめ・不登校、学力の課題
家庭学習の把握・改善

教頭の役割

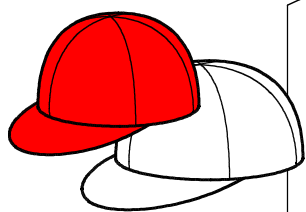
主任的立場にならないこと
校長の補佐
校務の整理
遂行するための職員間の 調整機能
教員の指導教育にあたる
PDCA サイクルを活用し、各主任や
教諭に対して効果的な指導助言を行う

主任等の役割(＊各主任等に期待すること・別紙)

- ・主任は校務分掌の連絡調整と指導助言
- ・分掌業務の具体的な実施に関しての体制づくりや運営の責任

学校事務の効率化・活性化

- ・学校経営への参画・教員との協働
- ・学校事務業務の効率化や処理のルール化、業務負担を軽減



OJTの推進

学校教育目標の達成のための組織的・実践的な運営

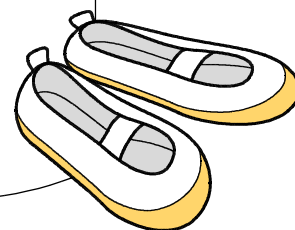
支えあい・高めあい 活力のある学校

人事評価・学校評価の連動

校内研修の充実・学校評価中間チェック

中堅教員育成・若手教員育成

学びあい・育ち合う職場づくり



主 任 等	主 な 役 割
・主幹教諭	・副教頭的な立場・各分掌を横断的に調整統括 ・教育計画の進捗状況への指導助言・校務の整理やスリム化 ・事務の効率化に対して具体的に改善
・指導教諭	・児童生徒一人一人に学力をしっかりと保証していくための個々の授業力の向上・校内研修や研究体制を充実 ・研究主任と併置して研究・研修体制の強化
・教務主任	・教育計画の立案・実施、時間割の総合調整、教科書・教材の取り扱い等教務についての教職員間の調整
・生徒指導主任	・生徒指導の企画推進・校内外生徒指導の連絡調整・各学年の配慮すべき児童の把握・長期休業中・夜間生徒指導
・特別支援教育学校コーディネーター	・各学級担任や学年団から出された困り感のある児童について、校内特別支援委員会を開催 ・各関連機関との調整連携 ・SC・不登校児童に関する書類作成調整
・学年主任	・学年の経営方針の設定・学年部会・学年行事の計画立案 ・学年集会の計画
・研究主任	・校内研究計画の作成・実施（指導教諭）・研究主題の設定・研究成果のまとめ
・人権教育主任	・校内における人権教育の全体計画、年間指導計画の作成ととりまとめ・会への参加
・保健主事	・学校保健計画の作成・施設設備の安全点検・避難訓練 ・病気事故予防に関する啓発及び情報提供・救命救急研修会の企画・薬物乱用防止教育の推進
・指導工夫改善加配	・指導方法の工夫改善（習熟度・分割・課題別）・よりきめ細かな指導・実績とりまとめ・実績書類作成 ・県単元テストへの取組
・児童生徒支援	・支援の必要な児童への対応・実績書類作成

H22年度 校内研修のシステムについて

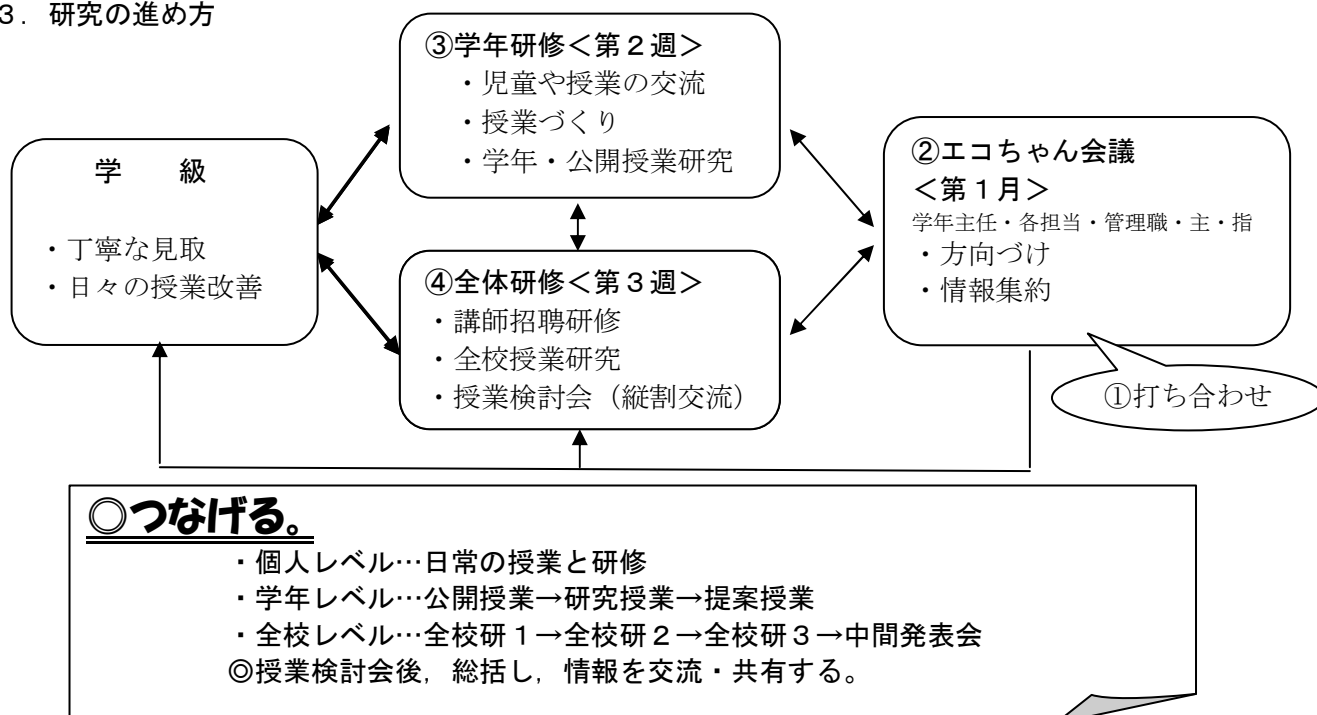
1. 研究の重点化

- 「生きてはたらくことばの力の育成」 (つきたい力)
ー児童主体の言語活動を重視した授業の創造ー (授業方法)

2. 研究の取組方

- ・授業研究中心→全員授業 (年次研修等と兼ねてよい)
- ・学年研修を協働的な研究の場とする。

3. 研究の進め方



4. 教育課程指定授業関係成果報告について、確認事項

- (1) 授業研究中心の校内研修 (全員授業)
- (2) 中間発表会の開催 (学年国語1)
- (3) アンケート (チェックシート) の2回実施→検証…学年1名 (中間発表会授業者)
- (4) 年間指導計画, 教科経営案, 単元構想・計画・指導案, 指導案の作成…8/2(午後)研修

5. 授業研のスタイル

☆各学年で、以下①②③④の四つのスタイルを、5/25 までに分担してください。

①提案授業 (国語) 学年1名 中間発表会 (1/18 火) での授業者

- ・授業者への説明…5/25(火)4:15～会議室
- ・**6月に公開授業を行う。チェックシート(児童アンケート・自己評価・参観者評価)を行う。**
- ・学年で指導案作成→1/11 (火) 9時指導案提出→印刷→指導案集作成→指導案交流 (1/12)
- ・**1月提案授業においても、チェックシートを行う。授業者6人分を集計して県に提出する。**
- ・授業後、学年 (他校教員含む) 研究協議を行い、まとめる。→研究集録→交流

②研究授業 (国語) 学年1名

A:「全校研」(低中高各1)?10/20,11/17,12/8→市教研など外部に公開

- ・全校で授業検討会→竹崎→職員会等で交流→提出資料・集録・次の授業研

B:「学年研」(全校研以外の各学年1)

- ・学年研は、初任者研修の授業参観のため、できるだけ「月・水・木」に設定する。
- ・実施月を決める。(二学期中)
- ・学年で授業検討会→竹崎→文書交流→提出資料・集録・次の授業研
- ・授業日の決定…5月25日(火)4:15～会議室 授業者で日程を調整する。
- ・学年で指導案作成→8/24に指導案交流(検討)
- ・チェックシートを実施する。(①各自授業改善に活用, ②チェックシートの改善)

③公開授業(国語以外でもよい) <5月末までに学年で計画→6月職員会で配布>

- ・略案でもよい。
- ・できるだけ重ならないように, 実施月を決め計画的に行う。
- ・行事予定の職員会で, 予定の週(または日)を記載する。
- ・一学期, 二学期に計画する。
- ・一週間前には日時を周知し, 前日5時までに指導案(略案可)を配布する。
- ・チェックシートを実施する。(①授業改善に活用, ②チェックシートの改善, 各自で活用)
- ・参観者に感想・意見をもらう方法を工夫しまとめる。→竹崎→文書交流

④市教研等対外的研究授業(国語以外でよい)

- ・実施月を周知する。指導案を配布する。
- ・授業検討会をまとめる。→竹崎→文書交流
- ・チェックシートを実施する。(①各自授業改善に活用, ②チェックシートの改善)

☆ 授業研スタイルの比較一覧

	日の指定	資料	事前研	チェックシート	参観者	授業検討	まとめ
①公開授業	6月～12月	略案可	各自(?竹崎)学年		1人以上 学年 管理職等	各自で工夫 学年	授業者
②研究授業	A 全校研の日	指導案	学年→全体	各自活用	全員 市教研等	全体研	授業者 竹崎
	B 学年研 9月～12月		学年		学年 管理職等	学年	授業者 学年
③提案授業	1/18(火) 5校時	(指導案集)	学年→全体	2回集約 提出	学年 他校教員	学年・ 他校教員	授業者 学年
④対外授業	適宜	指導案	市教研 各自(?竹崎)	各自活用	市教研	市教研	授業者

- 授業づくりについて, 何でもお声掛けください!(資料集め, 指導案作成, 講師の手配…など)
- 学年研の日には米倉指導主事が来てくれます。(次回, 研究授業担当学年優先)
- 学年ごとに, 講師(県職員など講師料のいらない)を呼ぶこともできます。

6. 特別支援学級担任の先生方

- ・ねらい…基本的に, 担当(児童)授業の改善を工夫する時間とする。
- ・体制…担当児童の状況に応じて, 「フラ研」または「学年研」を選ぶ。
- ・授業研究…スタイルは状況に応じる。
 - ①担当児童の授業,
 - ②他クラスを借りての授業,
 - ③個別の指導計画を用いての事例等
 上記のいずれかを行い, 文書にまとめる。→特別支援コーディネーター

○ 授業研究計画一覧表

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
6	(17)寺内	(4 週)依岡	(4 週)難波 (下)小松 ^道	(2)江口 (9)宮崎	(15)楠瀬正 (下)松木 ^理	(15)中上
7					竹崎	文野
9			藤原	山崎		広瀬
10	(26)高橋 [㊟] (下)松下 ^算	(中)馬場 ^体 (下)伊賀 [㊟]	藤川 ^道	野村	土居ゆ ^図	野島 ^理
11		(下)楠瀬悦	賀門 [㊟]		(17)橋本 [㊟]	猪野 [㊟]
12	(上)中澤 ^算	(上)土居か		(8)篠上 [㊟]		
1	寺内	依岡	難波	宮崎	楠瀬正	中上

○公開授業の先生方へのお願い

(1) 授業研の設定について

- ・その月の職員会までに、第○週予定か（または日時）をお知らせください。
- ・予定が近い先生とは、同じ日にならないように必ず調整してください。（公開＜授業研優先）
- ・日程は、主幹に確認してください
- ・遅くとも一週間前には日時を決定してください。
- ・できるだけ、「月・水・木」に設定してください。
- ・前日までに、教職員全員に指導（略）案を配布してください。

提案授業や、研究授業（を受けてくれた先生方）の土台となるためにも、「みんなで」「いっしょに」という気持ちでやっていきましょう！

(2) 授業の振り返りについて

- ・チェックシート（参観者・自己）、児童へのアンケートを実施してください。

*元原稿フォルダー：「一般教員→研究集録→2010→チェックシート等」

- ・参観者に感想・意見をもらう工夫をし、まとめてください。

*アンケート、授業記録用紙、付箋紙など

*可能であれば検討会を開催する。

- ・指導案の後に、次の点を中心に考察を記入してください。

*フォルダー：「一般教員→研究集録→2010→指導案等→様式→指導略案」

*「つきたい力」に沿って、児童についた力や、課題などを記入してください。

*設定した言語活動（及びつきたい力とのについて、振り返り記入してください。

*チェックシートやアンケートの結果に触れて下さい。

*板書の写真を載せてください。

単元終了後、1週間をめどに作成し、フォルダーに保存して下さい。→研修便りで文書交流→研究紀要に掲載

(3) 指導略案の1～5の項目は、最低ラインとして捉えてください。

*略案の形式は、6月2日に提案済み 「一般教員→研究集録→2010→指導案等→様式→」

*指導案の形式については、8月2日に提案済み

研究テーマの実現に向けて

「生きてはたらくことばの力の育成—児童主体の言語活動を重視した授業の創造—」

広島大学大学院教授 吉田裕久先生

I 生活科・総合的な学習の時間との関連

1 総合的な学習の時間からみた国語科との関連

- 総合的な学習の時間は、まさに国語科そのもの
- 必要なのは「学びの意欲」
- 国語科との関連① 調べる＝読書指導（選び方、読み方）
- 国語科との関連② インタビュー＝話し合い、記録、要旨

2 国語科からみた総合的な学習との関連

- 総合的な学習の時間は、国語の最先端
- 国語科で「習得」したことを「活用」することにより、「探究」的な総合的な学習につなげる
- 総合的な学習の時間は「ことばの活用の時間」

3 野市小学校における研究課題の特長

- 総合的な学習の時間を実現するために、つけておきたいことばの力を課題として設定する

II ことばの力をめぐる動向

1 H16 年以降の流れ 「ことばの力がどのように関心を集めてきたか？」

- 「これからの時代に求められる国語力」→「PISA 型読解力」→「全国学力・学習状況調査」
- これからの時代に求められる国語の力＝考える力、感じる力、想像する力、表す力
- PISA 型学力における日本の課題＝熟考・評価・表現→「国語力」と一致
- 国語の力（ことばの力）は、国語の時間だけで育てるものではない

2 ことばの力の役割

- ことばの力の役割① 思考力・判断力・表現力の基盤＝知的活動の基盤
- ことばの力の役割② コミュニケーション・感性・情緒の基盤
- ことばの力がどれほど大事か？ということ、教員間で共有することが大事

3 学習者の実態からスタートする

- 教材からスタートしない！×「今日は○ページの勉強だよー」
- 学習者の実態とは、近未来を考えた「つけないといけない力」「ついていない力」の発見
- 学習者の実態とは、現状に迎合しない
- 学習者の幸せにつながる、近未来の姿の中で実態を見ていく

4 国語の力を付ける国語の時間に

- つけるべきことばの力を意識した授業
- 幼小・小中連携を含めた「つけるべき力の系統性」の認識
- 学習者の「すでについているはずの力」を踏まえる

III 国語科授業の課題

1 国語科は、ことばの力を付ける教科

- 「どのようなことばの力をつけたのか」を意識する授業
- 言語活動は大きな効果がある

2 学習者の実態からスタートする

3 目標の焦点化

- 「○○力」に焦点化した単元（本時）の目標
- 年間指導計画の必要性

8月25日（水）国語科授業づくり

1 午前：学年別授業づくり（9：00－12：00）

（1）研修の目的

○作成した「単元構想・単元計画・学習指導案」をブロックごとに交流し、指導主事から助言を受け、改善する。

（2）日程

8:50－ 日程説明（職員室）

9:00－ 9:50 高ブロック（会議室）

10:00－10:50 中ブロック

11:00－11:50 低ブロック

例）5年説明15分 交流・助言（指導主事）10分

6年説明15分 交流・助言（指導主事）10分

*上記時間設定以外は、学年ごとに必要なことを話し合う。

2 午後①：縦割りグループ別 全体交流（13：30－15：00）

（1）研修の目的

○学級担任一人一人が、自分の学年の「単元構想・単元計画・学習指導案」を説明する。

（2）日程

①指導主事より 助言

②縦割りグループ別交流

グループ別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	進行
A（発表者）	◎寺内	◎依岡	◎難波 小松佳	◎宮崎	◎楠瀬	◎中上	竹崎
B（研授）	○高橋	楠瀬悦 （○伊賀）	○賀門	山崎 （○篠上）	○橋本	○猪野	松木
C	・中澤 ・松下	・土居和	・藤川	・江口	・土居ゆ	・広瀬	野島

*学級担任以外の先生は、適宜グループに入る。

（3）準備物

・学年で作成した「単元構想・単元計画・学習指導案」を印刷して持参する。

3 午後②：学年別研修

*学年ごとに、必要な内容について話し合う。

*教科書が決まっていれば、年間計画・教科等経営案についての作成時間とする。

つなぐ

No.11

あっという間に、夏休みも八月になりました。二学期が始まれば、また怒涛の日々になります。今週は前半の研修ですが、野市小は研修日が多いなあと感じる先生方もいらっしゃると思います。

研修を工夫して、先生の、じっくり振り返ったり、考えたり、周りの先生とたくさん話し合ったり、確認したり、気付いたりできる時間になればいいなあ、願っております。限りある時間を有効に、そしてリフレッシュも忘れないで取っていきましょう！

8月2日(月) 校内研修

午前：学年研究目標・授業目標設定

午後：新学習指導要領の趣旨と、単元構想のポイントの理解

<1年>

- 学年の課題(目標)が明らかになったことがよかった。単元構想のための時間設定をしてもらったことがよかった。
- 単元構造図を話し合うことができ、見通しを持ててよかった。
- 学年で話し合って、学年研究目標と学年授業目標がきまり、学年構想の案ができてよかった。

<2年>

- これからの学習指導案等を考える上で役に立ちました。
- 単元構想等について学年団で共通理解できてよかった。
- 児童の実態をもとに、つけたい力、目標が明確にできたことがよかったです。授業づくりでは、学習指導要領の趣旨、ポイントを分かりやすく説明してくれたので、学年ごとの授業づくりでも、様々な意見が出て楽しかったです。
- 単元構想のあらましの計画ができた。
- 新学習指導要領における言語活動の重要性がわかった。よい研修になった。
- 何に重点をおいて学習したらいいのか、はっきりしました。二年生の規準を参考に担当児にわかるよう考えていきたい。
- 子どもについていない力がしっかり把握でき、基本的な手立てを見付けることができた。

<3年>

- 今日は、国語科における学年の目標が決まり、その達成のための教師の目標も決まったので、二学期はこの目標を意識し、目標が少しでも達成できるようにやっていきたい。
- 授業の見通しがついてきた。
- 「単元構想」ってよくわからなかったけど、どういう順序で考えていけばいいかがわかってよかった。「言語活動」も悩んでいたことが解決できてよかった。

<4年>

- 単元構想図が大まかにできて、1月の授業に向け、見通しを持つことができた。午前中は、学年研究目標づくりを行いながら、児童の実態を把握することができた。
- 国語の指導案を考えることで、国語の文章の「読み方」「読ませ方」について考えさせられました。

○午前中は、学年研究目標などを決め、これから子どもの何を伸ばしていくか、具体的に学年で共通理

解することができてとてもよかった。

○学年研究目標、指導案について時間を十分とって話し合うことができてよかった。

○学年の課題を重点化することで、今後取り組むことが明らかになった。国語研の見通しを持つことができた。

○説明文の学習の進め方や、それを生かした言語活動について話し合うことで、今後に生かせる様々な具体案を出し合えた。

○午前の研修では、児童に付けたい力、ついている力と整理してまとめることで、学年目標を作りやすく、具体的な手立ても立てやすかった。

< 5 年 >

○学年の研究目標が決定し、今後の指導に向けて頑張って取り組まなければと思った。児童の実態からスタートすることの大切さを改めて知った。米倉先生に話を聞いたり、アドバイスを受けていたりして、授業研究のイメージができた。指導案作成がんばります。

○新学習指導要領の見方、読み方など、とても参考になりました。単元の指導を考えるにあたって、どんなことに気を付けたらよいのか、どんな手順をふんでいけばよいのか教えていただき、ちょっとやってみようかなと思いました。

○講師の先生にわかりやすくひもといていただき、とても参考にさせていただき、自分なりに取り組んでみようという気になりました。「こと」がよくわかってないのは、自分だけかなあ…と反省です。

< 6 年 >

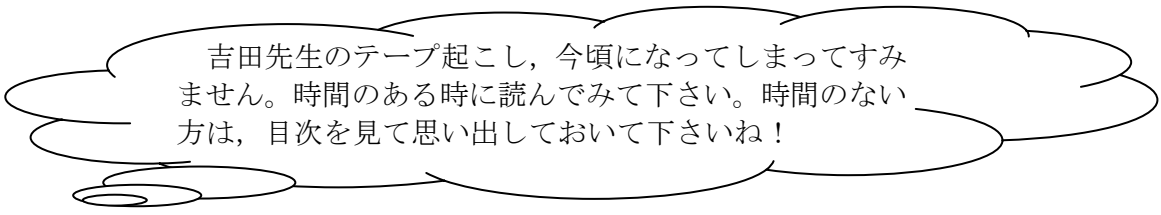
○今日ほど真剣に楽手指導要領を隅々まで見たことはありませんでした。現状と課題がよく分かりました。それが最大の成果でした。

○単元構想を作成する時のポイントや流れが、よく分かりました。(米倉先生のお話)。学年の目標をしっかりと設定するために、じっくりと話し合えてよかった。

○来年度からの、指導要領実施に当たっての理解が深まった。教科書の内容や編集の仕方が分かってよかった。自分の指導の不十分なところが明らかになってきたので、教材研究の必要性を感じた。

○能力面よりも、意欲…というか、態度面にいかにかたよった力をそそいできたかと思い知りました。午前中はとにかく自分の不勉強にあきれました。教科書をちゃんと読んで、子どももちゃんとみなきや。でもね～…。

○子どもの実態と、学習指導要領を照らし合わせて、これからつけたい力と、そのための方法などを考えていくことを初めてしました。目的を持って授業をすること、当たり前かもしれませんが大切なんだなと思いました。



吉田先生のテープ起こし、今頃になってしまってますみません。時間のある時に読んでみて下さい。時間のない方は、目次を見て思い出しておいて下さいね！

つなぐ

No. 19

授業研の振り返りを交流します。12月に入り、公開授業・研究授業も、残すところ数本になりました。いつもながら、人数が多い分、小さい学校の何年分もの授業や指導案を見ることができるのは、野市小学校の強みですね。

10月1日(金) 3年4組

単元名 風の力で車を動かそう

この学習で重要視したことは、結果と結論は同じではない、ということをつくらせることです。本時の前に、同じ単元をやったクラスの振り返りの結果が、結果と結論に同じことを書いていたからです。このことから、「結果から分かったことを導き出す」ことを指導の課題とし、その手立てとして2つのキーワードのカード{風の力}{物を動かす}を使ってまとめさせようとした。また、{手ごたえ}と{車}の結果から分かることをワークシートにまとめさせた子どもたちは、{物を動かす}というカードを提示しなくても、どのグループも「風の力は物を動かす」とまとめていた。しかし、個人の振り返りカードには27名中21名が結論のところに風の働きではなく車の様子のことを書いていた。この結果から、事後の反省会で、やはり理科の学習では、生活全般に関する知識の習得として考えるべきだとなった。今回の授業で、「生きて働く言葉の力」に関することでは、実験結果を表に書いて分かったことを発表させることを言語活動と位置づけた。3年生の段階では、実験結果を分かりやすくまとめ、他人に伝えることや、結果と結論を分けさせていくことは難しいことではあるが実験の結果を表などに整理する態度を身につけさせたい。表にすることで、分かりやすくなり、結果からいろいろな考えを引き出すことができるようになる。授業後「風力エネルギー出前授業」で高知県企業局の方にペットボトルを使って風車を作り発電量を調べてもらい、学習を深めることができた。(藤川)

10月8日(金) 4年3組

単元名 愛の心を描いた物語を読もう

学習材 「世界一美しいぼくの村」

この単元「世界一美しいぼくの村」では、意味段落ごとにヤモや父さん、兄さんへの気持ち、バグマンの村への気持ちを子どもたち一人一人に考えや思いを書かせ、毎時間発表させてきた。自分の意見を書くことが、苦手だった児童も授業をかさねるごとに自分の考えを書けるようになってきた。また書いたことを、発表させることで自分が書いた意見とは違う、いろいろな考えがあることに気づけた。

本時では、最後の一文について、自分の考えを発表させることによって戦争で破壊されたものは、目に見えるものと目に見えないものがあることに気づき、友達の考えを聞いて、いろいろな考えがあることを知るという目標があった。まず授業の中で、最後の一文「今年の冬、村は戦争で破壊され今はもうありません」を読んで、戦争で破壊されたものは何なのかを一人ひとりが自分の言葉で人物の気持ちなどに注意して考えを書くことができた。考えをなかなか書けない子どもは、後ろに貼ってある挿絵をみて、今までの学習を振り返り自分の考えを書けた。しかし意見交換の場面では、この単元が始まった時から発表する子どもは固定されていた。授業の中で、発表できない子どもたちのために、もっと少人数で話し合わせ、意見交換の機会をつくるなど子どもたちが自信をもって言える環境を授業の中で取り組んでいきたい。

戦争で破壊されたものは、何だったのか、どう違うのかということをもっと深く学習活動のなかで取り上げて考えることで一人一人の考えの違いをもっと感じ取れたのではないかという反省ができた。(野村 存)

10月20日(水) 2年3組

教材名 力をあわせてナイスシュート! (E ゲーム ア ボールゲーム)

つけたい力については以下の三点「①簡単なボール操作やボールを持たない時の動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすることができる。(技能) ②簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。(思考・判断) ③ボールゲームに進んで取り組み、決まりを守り仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気をつけたりすることができる。(態度)」を考えた。各時間で重点とする力を明確にする必要があった。

言語活動の充実については学習カードを使用させたり、話し合い活動、意見や感想を発表する時間を保証することなどで充実を図った。学習カードを使用することにより、体育も他の教科と同じように言語活動を必要とする教科であることを意識させることができたと考える。また、作戦カードの記入を通して話し合いに必然性を持たせることもできた。

授業後の児童アンケートによると「考える時間をくれる」「わかって楽しい」「よく聞いているとよくわかる」の項目が評価が高い。考えたり、具体的なゲームの説明をしたりすることに時間を割いた成果が表われたと考えられる。また、「絵やものを使って教えてくれる」「書く、読む、発表するなどいろんなことをする」の項目が評価がやや低かったのは、大きな図を使うことができなかったり、学習カードを十分に使い切ることができなかったことが原因として考えられる。

参観者からは本時は学習内容が多すぎたために、授業者が急ぎすぎ、説明が早口になったり、学習カードへの記入時間が十分に取れなかったなどの感想が寄せられた。学習計画の作成時にさらに該当学年の特性に配慮する必要があることを痛感させられた。

今後は運動量の確保に十分配慮するとともに学習カードの効果的な使用などを通して、言語活動(書く・話す・聞く・話し合うなど)の充実も合わせて図っていく必要があると考えられる。
(馬場)

11月12日(金) 3校時 4年1組

単元名 四角形をつくろう

児童はいろいろな四角形をプリントに書き辺の長さや角を調べる活動は、喜んでできていた。視覚によって学習理解を図るために、ラミネートシートを使い児童に書かせることにより、学習が活発に行われた。

しかし、今までの既習の図形が十分に理解できていない児童もいて、垂直に交わるということが十分理解できていない児童もいた。

これからの四角形の学習の中で、さらに理解できるように個別指導や加力指導をして、「直方体と立方体」や「面積」へとつなげていきたい。(山崎)

担当制について

H 2 2 . 4 . 1 4

1 目的

- (1) 教職員一人ひとりが学校運営において役割を担い、主体的に学校運営にかかわる。
- (2) 学校運営の効率化と時間の有効活用を図る。

2 確認事項

- (1) 学期初め、学期終わりに担当者会の時間を確保します。その他、担当者会が必要な場合は、担当者間で時間設定をお願いします。
- (2) 提案文書、運営資料等は各担当者ファイルに印刷物として保存するとともに、サーバーの各担当フォルダにデータとしても保存してください。
- (3) 職員会での提案が必要な場合は、事前に井手までお知らせください。
(お知らせいただいた内容を反映させて、学期ごとに職員会の計画を提案します。)
- (4) 事後の反省を話し合う場合は原則として職員会内に設定しません。反省は実施後書面にて回収する等して、担当者で集約、記録を残してください。
- (5) 提案文書、運営資料、反省等を元に、年度末に担当内容についての教育計画（学校運営計画）を作成していただきます。

3 本日の内容

- (1) 各担当の代表者を決めてください。
- (2) 年間行事予定、昨年度の職員会議題、昨年度の研究集録の各部の取り組み等を参考に、今年度の計画を作成してください。
(別紙に記入し、井手まで 4/30 締切)
- (3) 当面の行事や急ぎの内容について、検討をお願いします。
- (4) その他

重複している担当者がいるので、まずは

『生徒指導』 『特別活動』 『児童会』 『体育』 『健康・安全教育』
『人権教育』 『エネルギー・環境教育』の担当者会を行います。
(中上先生は、まず『エネルギー・環境教育』に参加してください。)

指導運営部 担当

資料8
H22. 4. 14

担当	生徒指導	生活指導・くらしの決まり・Q-U(山崎・寺田・篠上・濱岡)
	特別活動	クラブ委員会人数割り振り・実施クラブの決定・反省評価用紙作成・春の遠足・演劇鑑賞会(楠瀬正・中上・藤川・高橋・伊賀)
	児童会	代表委員会・月目標・12月集会(藤原・出間・猪野・橋本)
	体育	水泳指導・運動会・5分間走・対外的行事・体力づくりの取組(馬場・宮崎・江口・難波・依岡・文野・野村)
	健康・安全教育	心と体の健康・命に関する授業・生活がんばりカード・誘拐・万引き・薬物防止教室・校内安全点検(岡崎・岩田・北村・公文・広瀬・賀門・中澤)
	人権教育	人権教育の推進・年間計画取りまとめ・市人研(土居和・野島)
	道德教育	道德教育の推進(藤川・小松佳)
	国語	やまもも・せんだん(楠瀬悦・野島・濱渦)
	図書	読書活動の推進・図書経営計画・選書会・感想文・感想画(山崎・松下・石川・岸野・浅野)
	理科	自由研究・花壇割り当て(松木・野田)
	音楽	音楽会・CD、歌詞配付・伴奏(藤原・出間・依岡)
	図画工作	県展・市展・総美・夏休み作品(小松た・土居ゆ・寺内・中澤・井手)
	外国語活動	ALT打ち合わせ(広瀬・楠瀬正) ALT連絡調整(井手)
	エネルギー・環境教育	エネルギー教育・環境教育・環境フェスティバル(松木・中上・野田)

校外補導・市(松木)町(井手・難波)

委員会活動担当

委員会活動	図書	山崎・小松た・岸野・高橋・浅野
	掲示	賀門・土居ゆ・寺田
	放送	中上・野島・難波
	保健	岡崎・岩田・中澤
	安全	藤川・濱岡
	美化	寺内・小松佳
	体育	馬場・江口・広瀬
	環境	松木・宮崎・野村
	児童会	猪野・橋本・藤原
	給食	北村・公文・篠上・石川
	栽培	野田・都築・依岡
	福祉	土居和・松下・別役
	集会	楠瀬正・楠瀬悦・伊賀

各会議 現状と課題・改善について

資料9
H22. 9. 1
学校運営担当

会議名	現状と課題			改善案
	構成	開催	内容・課題等	
職員会	全教職員	月1回 (第1水曜日) 15:10～16:50	○ 学校運営、学校行事について提案・確認 ○ 研究についての提案・共通理解 ○ 配慮の必要な児童について共通理解 ● 時間内に収まらず、勤務時間を超過する。 ● 回数が少なく、行事等の計画、振り返りができていない。	校内研修の予定、内容から判断し、職員会を現状より増やすのは困難。内容や運営の仕方等の見直しにより、効率化を図る。 ◇ 議題を検討事項と報告・確認事項に分け、検討事項から話し合う。 ◇ 資料を前日までに配付し、事前に目を通せるようにする。 ◇ 提案者と司会者との打ち合わせにより、討議の柱を明確にした提案、検討を行う。 ◇ 行事等は書面により確実に意見を集約、担当が記録として残す。
職員朝礼	全教職員	毎週月・金曜日 8:20～8:30	○ 日程の確認、直近の行事等の提案 ○ 緊急な対応を要する事柄についての検討、周知 ● 本来職員会で検討すべき内容を提案することがあり、時間を超過することが多い。	◇ 全校にかかわること、大きな行事のみを確認し、板書しているものすべてを読まない。(板書の工夫) ◇ 確認や報告で済むものは、資料を配付していることを板書で知らせるようにし、口頭で確認しない。 ◇ 行事等の提案は行わず、職員会に組み込む。どうしてもできない場合は、別に時間を設定することも考える。
エコちゃん会議	校長、教頭、主幹、指導、教務主任、研究主任、学年主任	月1回 (第1月曜日) 16:00～	○ 研究について原案の検討・学年団への周知 ○ 学年団からの情報収集、意見集約 ● 計画的な運営ができていない。 (内容、議題、参加者の選定)	エコちゃん会議を、下のように2分割して行う。 ◇ エコちゃん会議(運営) 校長、教頭、主幹、指導、教務主任、研究主任、生徒指導担当代表、総括主任、養護教諭が参加。学校運営上必要な事柄について検討する。 ◇ エコちゃん会議(学年主任) 校長、教頭、主幹、指導、教務主任、研究主任、学年主任が参加。研究についての方針の検討、学年団への周知、学年団からの情報収集、意見集約等を中心に話し合う。 ◇ 運営→学年主任の順に行う。
研究推進委員会	校長・教頭・又は主幹、指導、教務主任、研究主任	不定期	○ エコちゃん会議、校内研修の原案等の検討 ● 組織上の位置づけが明確でない。	校長、教頭、主幹、指導、教務主任、研究主任の打ち合わせとする。定期的に開催し、研究面の原案について検討する。
校内特別支援委員会	校長、教頭、主幹、指導、特支コーディネーター、副コーディネーター、養護教諭、該当学級担任	月1回 (最終月曜日) 16:00～ 他、必要に応じて	○ 配慮の必要な児童について対応策を検討。状況により外部機関と連携	左記に加え、該当学年団より参加。学年でのサポートをより強化する。
朝の打ち合わせ	校長、教頭、主幹、指導、特支コーディネーター、養護教諭	毎週月曜日 1校時	○ 子どもや学級の現状について情報収集、確認 ○ 研究の原案について検討 ○ スケジュール確認 ● 配慮の必要な子どもの話に終始し、研究や運営についての話し合いができていない。	子どもや学級の現状についての話し合いは9:00までとし、以降は校長、教頭、主幹、指導の運営打ち合わせとする。

※ 現在の学校や先生方の状況について、率直なご意見をお聞かせください。

資料10

※ 数値は、[はい ← 1 2 3 4 → いいえ] 4点の評価の平均値

	NO	質問内容	H21.4.24	H22.12.1	比較
教員個々の自律性	1	これまでの子どもの実態や課題のとらえを、修正したり見直したりすることの必要性を実感している。	1.64	1.41	↑
	2	自分の学級の課題について、他の先生との話し合いを通して「こう考えればよいのか」と気づくことができる。	1.43	1.30	↑
	3	子どもの課題に対して、「もっとこんなことができるのではないかとさまざまな可能性を考えられる。	1.95	1.61	↑
	4	今まで見えなかった子どもの良さやポジティブな変化が、先生方との話し合いの中で、少しずつ見えるようになっていく。	2.09	1.77	↑
	5	実践によって、子どもの課題が解決した、子どもが成長したという実感を持っている。	2.32	2.15	↑
	6	多様な観点で子どもの課題をとらえなおしながら、新しい実践を積極的に工夫しようという意欲を感じている。	2.27	2.00	↑
協働性の意識と質	7	子どもの問題やそれに関する教師の悩みなどについて、他の先生とお互いに気軽に話すことができる。	1.82	1.79	↑
	8	指導に困難を感じている子どもの様子などについて、先生方の間でよく話し合われている。	1.77	1.64	↑
	9	「なるほど」と思えるような、子どものとらえ方や指導方法の工夫などの実践の知恵について、情報の交換ができていく。	2.45	2.03	↑
	10	日常の授業や学級経営について、相互に報告しあったり参観しあったりして、それぞれの学級の特徴や問題などについて、知り合うことができていく。	2.57	2.21	↑
	11	自分の授業や学級経営の改善・向上につながるような気づきが、日頃の先生方との話し合いの中で得られている。	2.29	2.16	↑
	12	こうすれば野市の子どもはもっと良くなっていくのではないかと期待が持てる話し合いが教職員間でなされている。	2.81	2.51	↑
	13	校内の研修や会合は、それぞれの学級の児童の実態などを知り合うことを重視して運営されている。	2.82	2.41	↑
	14	校内研修と、日々の授業や学級経営とはあまり結びついていないと感じる。	2.50	2.90	↑
組織体制・共通理解	15	学校全体の課題は、各学級の子どもの実態やそれぞれの先生のとらえ方について情報交換しながら、具体化されている。	2.95	2.31	↑
	16	学校の課題に応えるために、各学級が取り組んでいる内容や方法を交流し、様々な実践的知識の蓄積がなされている。	2.95	2.56	↑
	17	先生方の間に、「子どもにはこうしていこう」と共感しあえる課題や取り組みが存在する。	2.82	2.15	↑
	18	学校として取り組むべき子どもの課題が具体的にイメージできる。	2.73	2.51	↑
	19	学校全体の課題は、学級の子どもの実態や課題とつながりを感じるものである。	2.55	2.08	↑
	20	学校として取り組むべき子どもの課題について、先生方の間でよく話し合われ共有できている。	2.77	2.36	↑
学校の雰囲気	21	学校全体の課題について、それぞれの教員によって受け止め方は多様であると思う。	1.45	1.62	↑
	22	学校全体の課題を踏まえて、学級で実践したり、指導を工夫・改善したりしている。	2.24	2.11	↑
	23	自分の学級だけでなく、野市小学校全体の教育を良くしていこうという意識を、先生方は強く持っていると思う。	2.36	1.92	↑
	24	自分たちの実践を、子どもの実態の中で検証し、見直していくことが、学校で取り組まれている。	2.76	2.11	↑
	25	それぞれの先生の個性や多様性が積極的に評価されていて、持ち味をいかした実践を展開しやすい雰囲気がある。	2.41	2.24	↑
	26	先生方の考えや取り組みの方向がいろいろあり、学校としての一体感はあまり感じられない。	2.23	2.69	↑
	27	現状より忙しくなっても、何とか学校を良くしていきたいという気持ちが持てる。	2.68	2.56	↑
	28	教員が一生懸命努力している割には、子どもたちには教育成果が現れにくいように感じる。	2.27	2.41	↑
	29	子どもの実態や学級での実践を互いにオープンにし、意見を交換し合って、意欲的に改善しようという雰囲気がある。	2.45	2.15	↑
	30	考え方や経験の違う先生とも、いろいろな知識や経験を交換し合い、お互いに実践を高めあおうという雰囲気がある。	2.55	2.00	↑